

町医者だより

平成27年09月号

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

ジャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング

テレビの健康番組でも時々取り上げられる睡眠時無呼吸症候群ですが、その多くは閉塞型と呼ばれる物です。高血圧や脳血管障害、心筋梗塞、糖尿病、認知症や死亡率の増加と関連がありますが、それだけではなく睡眠障害によって日中の眠気や疲れやすさを引き起こし日常生活の質の低下につながります。今回はChest誌に最近掲載された睡眠時無呼吸症候群のスクリーニングのための簡単な問診票(STOP-Bangテスト)のお話です。

STOP-Bang テスト

各項目の英語の頭文字をとったテストで、4項目からなるSTOPの項目: いびき(Snoring)、日中の疲労感(Tiredness)、第三者に指摘される無呼吸(Observed apnea)、高血圧(high blood Pressure)と同じく4項目からなるBangの項目: BMI >35、年齢(age) >50、首周囲(neck circumference) >40cm、男性(male gender)で構成されています。どの項目もイエスならばそれぞれ1点と計算し、満点が8点です。高血圧は、家庭血圧では135/85を超える場合です、BMIは体重(Kg)を身長(m)で2回割って算出しますが、日本では25以上を肥満としています。この論文はカナダからの報告ですがBMI >35は相当太っており、日本人ではこの項目がイエスとなる方はほとんどいないと思います。首周囲は喉ぼとけの位置で測った首まわりです。

5点以上だと睡眠時無呼吸症候群がある可能性が77%以上で、無呼吸低呼吸指数(AHI)が30を超える重症の無呼吸症候群の可能性も30%以上あります。

3~4点の場合なんらかの睡眠時無呼吸症候群がある可能性が72%、重症の無呼吸症候群のある可能性が13~18%です。点数が低いと本当に睡眠時無呼吸症候群が存在するという「特異度」が低くなってしまいます。病気がありそうだという「感度」が高いだけではだめで特異度が高くなしないと検査をしても無呼吸症候群ではない可能性が高くなって無駄な費用がかかってしまいます。そのため3~4点の場合は年齢、性別、首周囲、BMIを加味して2段階で評価する事を本論文では勧めています。

- STOPの項目2点以上+年齢>50歳の場合: 「感度」59.4%、「特異度」56.1%
- STOPの項目2点以上+性別(男)の場合: 「感度」40.1%、「特異度」76.8%
- STOPの項目2点以上+首周囲>40cmの場合: 「感度」33.5%、「特異度」79.0%
- STOPの項目2点以上+BMI>35の場合: 「感度」20.8%、「特異度」85.1%

これを見るとSTOPの4つの項目と「男性」と「首周囲径>40cm」の組み合わせが特に重要で睡眠時無呼吸症候群の存在をかなり疑う事になりそうです。このテストはもともと外科手術の際の無呼吸症候群のスクリーニングとして始まったものですが、現在では一般的なスクリーニングとしても普及して来ているようです。5点以上の方少なくないと思いますが……。